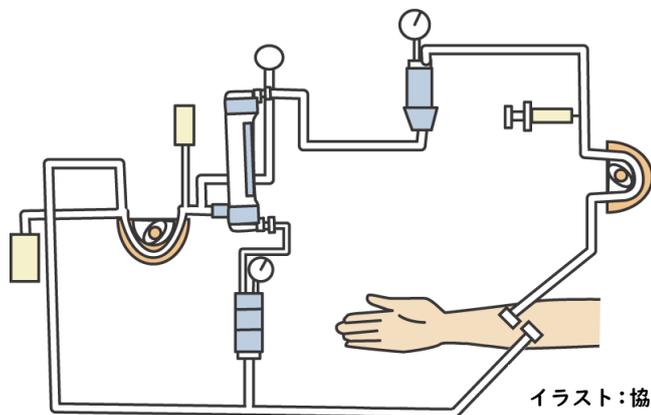


透析ってどんなもの？

人工透析には大きく分けて“血液透析”と“腹膜透析”の2種類があります。
全国の透析患者さんの97%は血液透析を選択しています。今回は血液透析についてのお話です。

◎血液透析の仕組み



イラスト：協和キリンメディカルサイトより

まず腕の血管に2本針を刺し、透析の器械のチューブとつなぎます。

次に血管から取り出された血液が透析の機械に入り、老廃物や余分な水分を取り除いた上で再び血管に戻します。

この作業を週に3回程度、1回4時間かけて行います。

◎透析を行うために必要なシャント

透析を行うには太い針を血管に挿す必要があります(1分間で200ml以上の血流量が必要なため)。

そこで腕にある動脈と静脈をつなぎます。

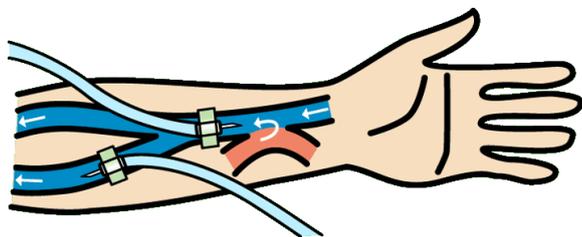
すると、勢いよく静脈に動脈血が流れ込むことで、段々と静脈が発達し太くなっていきます。

これをシャントと言います。これは左右の腕で何個も作れないため、出来るだけ長く使用出来るよう、患者様自身で管理を行うことが大切です。

腎機能が低下してくると透析が必要になりますが、シャントを作成しても静脈が発達するには時間がかかるため、事前に準備しておくことが大切です。

※シャント管理のポイント

- シャント音を聴診器で聞く
狭窄している時は、ヒュンヒュンと高音が聴取されます。
- シャント部分を触れて振動を感じる
シャントを手で触れるとザーザーと血液が流れているのを感じとれます
- シャントの手で重い物を持たない、腕時計を付けない。



イラスト：協和キリンメディカルサイトより

このように糖尿病が悪化し腎機能が低下したとしても、適切に透析を行うことで日常生活を維持することができます。
透析と上手く付き合い、有意義な人生を永く送るために諦めることなく主治医に相談しましょう。

看護師 金本 糖尿病専門医 高部